

2019 年9月 28 日

## 京都市内の地下に眠る弥生人の『足跡』

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 中谷 正和

### はじめに

平成 29 年から同 30 年にかけて実施した京都市立下京雅小学校の校舎等諸施設整備工事にともなう発掘調査では、弥生時代前期末から中期前半の集落跡が発見されました。調査地は、京都市下京区醒ヶ井通松原下る篠屋町 59 の元醒泉小学校敷地内に所在し、烏丸綾小路遺跡（図1）の南端部に位置しています。

### 1. 烏丸綾小路遺跡について

烏丸綾小路遺跡は、北は現在の錦小路通付近から南は五条通以南までの約 1.1 km、東は堺町通から西は猪熊通付近までの約 1.3 kmの範囲に広がる遺跡です。弥生時代前期から古墳時代後期までの遺構や遺物が出土しており、京都盆地の拠点的な集落の一つと考えられています。これまでの調査では、弥生時代の集落を囲む溝や堅穴建物、墓などが見つっていますが、その多くが弥生時代中期後半以降のものでした（図2）。今回の発見によって、これまで具体的な様相が不明であった弥生時代中期前半頃の集落の姿の一端が明らかになりました。

### 2. 調査で見つかった遺構

調査は、主に元醒泉小学校の敷地の北半（約 2,970 m<sup>2</sup>）を対象としました。弥生時代前期末から中期前半の自然流路や堅穴建物のほか、流路が埋没した場所に弥生人の足跡を発見しました。また、弥生時代中期後半の方形周溝墓も見つかりました（図3）。

**弥生時代中期前半** 堅穴建物は、少なくとも8棟を確認しています。新しい時代の掘り返しによって大きく壊されていますが、平面形がいびつな楕円形状のもの（堅穴建物 1206・3576・3544・3631）と、方形状のもの（堅穴建物 1055・3579）があるようです（図5）。弥生時代前期末から中期前半の土器や石器が出土しています。特に、堅穴建物 1055 からは、石器を製作した時に出る微細な石の屑がたくさん出土しました。

土坑も多数確認しましたが、何を目的に掘られたものかはよくわかりません。しかし、一部の土坑の埋土からは、炭や焼けた土が見つっています。

溝 1245 は幅 1.5m、深さ 0.35mの浅い U 字溝です（図6）。東側を流路 1132 で壊されていますが、溝の底から、遺存状態の良い弥生時代前期末から中期初頭の土器が出土しました。

調査区東側で確認した流路 1132 は、北東から南西方向に向かって流下する自然流路です。弥生時代中期前葉頃に河道の位置が変わった後、弥生時代中期中葉の氾濫性堆積（Ⅰ層）によって埋没するまで、湿地のような環境にあったこと（Ⅱ層）がわかりました（図4）。この場所から弥生人の足跡が多数発見されました（図 7）。

弥生人の足跡が見つかった場所周辺の土を洗浄して調べたところ、中からイネの種実や穎、イネ属の珪酸体や花粉がたくさん発見されました（図8～11）。また、イネだけでなく、アワやウリ類、シソ属（エゴマ?）なども見つかったことから、このあたりで稲作も含めた植物栽培が行われていたと考えられます。

今回の調査地以外にも、西側の醒ヶ井通を挟んだ場所では、弥生時代中期前半の土坑が確認されています。集落域は調査地から北西方向に向かって広がっていると考えられます。

**弥生時代中期後半** 方形周溝墓 3543 があります（図 17）。中心部分は新しい時代の掘り返しによって大きく壊されていますが、周りを囲った溝が残存しており、中から遺存状態の良い土器が出土しました。

### 3. 出土した遺物

出土した遺物は、土器・石器・木器・銭貨などがあります。土器には弥生時代前期末から中期前半のものと、弥生時代中期後半のものがあります。石器・木器はほとんどが弥生時代前期末から中期前半のものです。銭貨は弥生時代後期のものと考えられます。

**弥生時代前期末から中期前半の土器** 貯蔵するための壺や、煮炊きする甕、鉢や蓋などがあります。古い時期の土器は、頸や胴の部分に、先のとがった棒状の工具で何条もの平行線を1本ずつひいて紋様を描いています。それが、新しい時期になると、先のとがった棒を何本も束ねた、櫛のような工具によって何条もの平行線を一度にひいて紋様を描くようになります（図 12）。

また、土器の特徴をよく調べると、京都市周辺よりも遠い場所から持ち込まれた土器や、他地域からの影響を受けた土器が多数見つかりました（図 13）。

**弥生時代中期後半の土器** 壺や甕、高坏があります（図 18）。土器の口の部分に、太く浅い沈線（凹線紋）をひくことが特徴です。これらは、瀬戸内地方の影響を受けた土器と考えられています。

**石器** 石鏃や石剣・石戈のような武器類や石包丁、磨製石斧類、敲石、砥石、石錐、石鋸、管玉などがあります（図 14・15）。このうち、石製武器や石包丁、磨製石斧類、管玉などは、完成品だけでなく未成品や製作の際に生じた石屑などが出土していることから、この場所で製作されていたと考えられます。敲石、砥石、石鋸は、石器製作の際に用いられた工具と考えられます。特に、石包丁に関しては出土量も多く、この集落だけで消費する量を凌駕していると考えられます。また、磨製石斧類（特に磨製両刃石斧）に関しては、製作された痕跡が残る集落自体が珍しいものですので、石包丁とともに今回確認した集落外への流通を想定できます。

さて、こうした石器の材料となる石材ですが、粘板岩やサヌカイト、石英斑岩、結晶片岩などがあります。これらは沖積地の只中にある烏丸綾小路遺跡周辺では産出しない石材ですので、集落外から搬入されたと考えられます。今回の調査では理化学的な分析は行っておりませんが、粘板岩や石英斑岩は近畿地方北部に広く分布する丹波層群と呼ばれる地層から採集されたものと考えられます。サヌカイトは香川県坂出市国分台周辺や大阪府と奈良県の境にある二上山周辺で主に採取される石材ですが、今回の出土品は二上山周辺のものと推定されています。結晶片岩（紅簾片岩・緑泥片岩）は出土量が少ないですが、近畿地方南部の三波川変成帯と呼ばれる地層から産出されたものかもしれせん。いずれにせよ、烏丸綾小路遺跡から遠く離れた場所から持ち込まれたものと考えられます。

**木器** 広楯の未成品や縦斧の直柄などが出土しています（図 15）。いずれも流路 1132（新）から出土しました。

**銭貨** 中国でつくられた貨泉が出土しています（図 19）。残念ながら弥生時代からの遺構ではなく、中世の整地層から出土しました。

### まとめ

今回の調査では、これまで謎であった烏丸綾小路遺跡における弥生時代前期末から中期前葉の集落の一面が発見されました。さらにこの集落では、自己消費を超えた、地域間交流を前提とする活発な生産活動が行われていたことも明らかになりました。集落が成立した弥生時代前期末から中期前葉にかけての時期は、当時の人々が、中国大陸から伝わった文化を主体的に吸収し、列島古来からの文化と融合させた、ひとつの画期として考えられています。ここで紹介した調査成果をもっと詳しく分析することによって、この時期に起こった変革の仕組みの一端を明らかにすることができるのではないかと考えています。

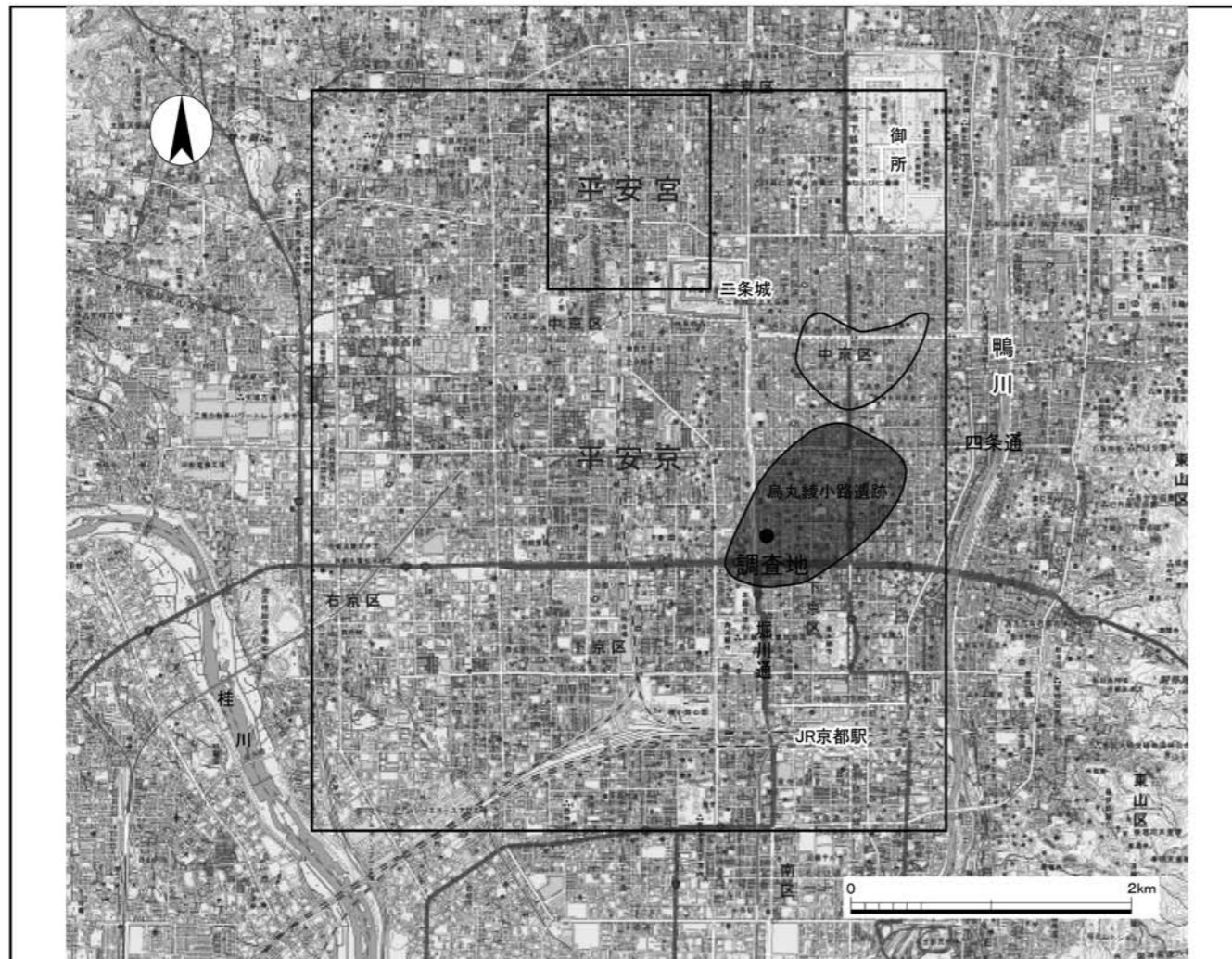


図1 調査位置図(1:50,000)、調査区配置図(1:1,000)

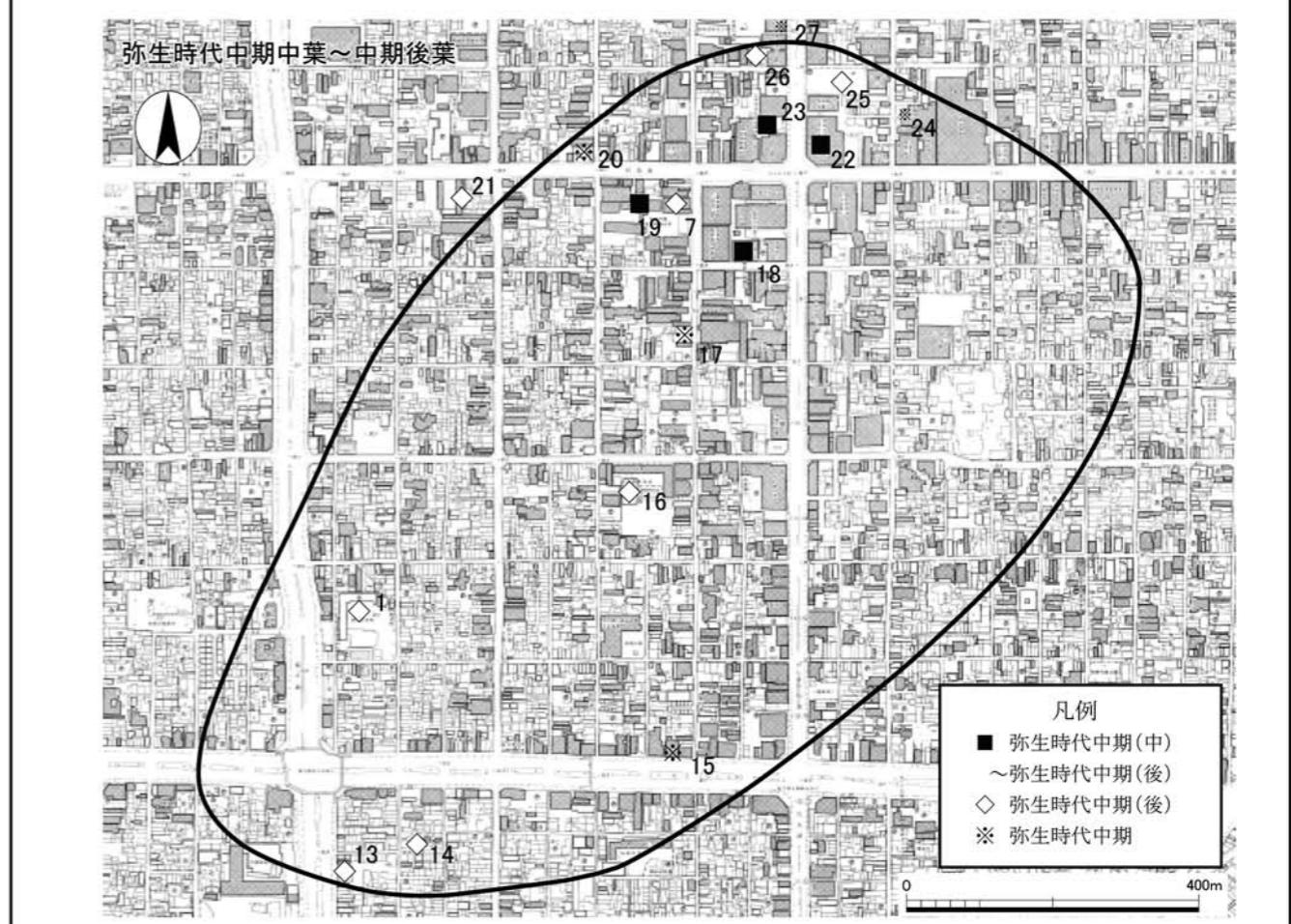
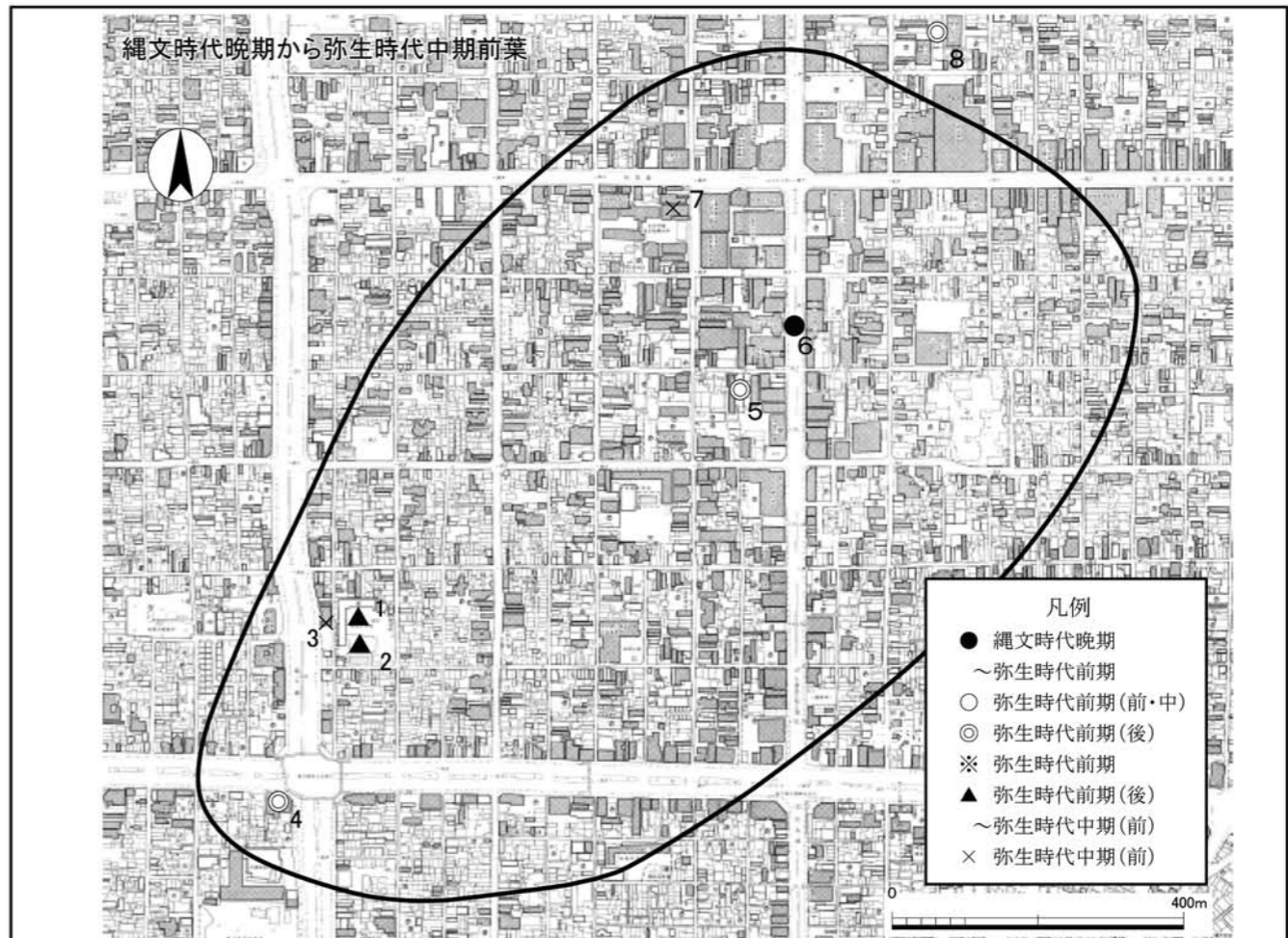


図2 鳥丸綾小路遺跡 主要調査地点 (1:10,000)

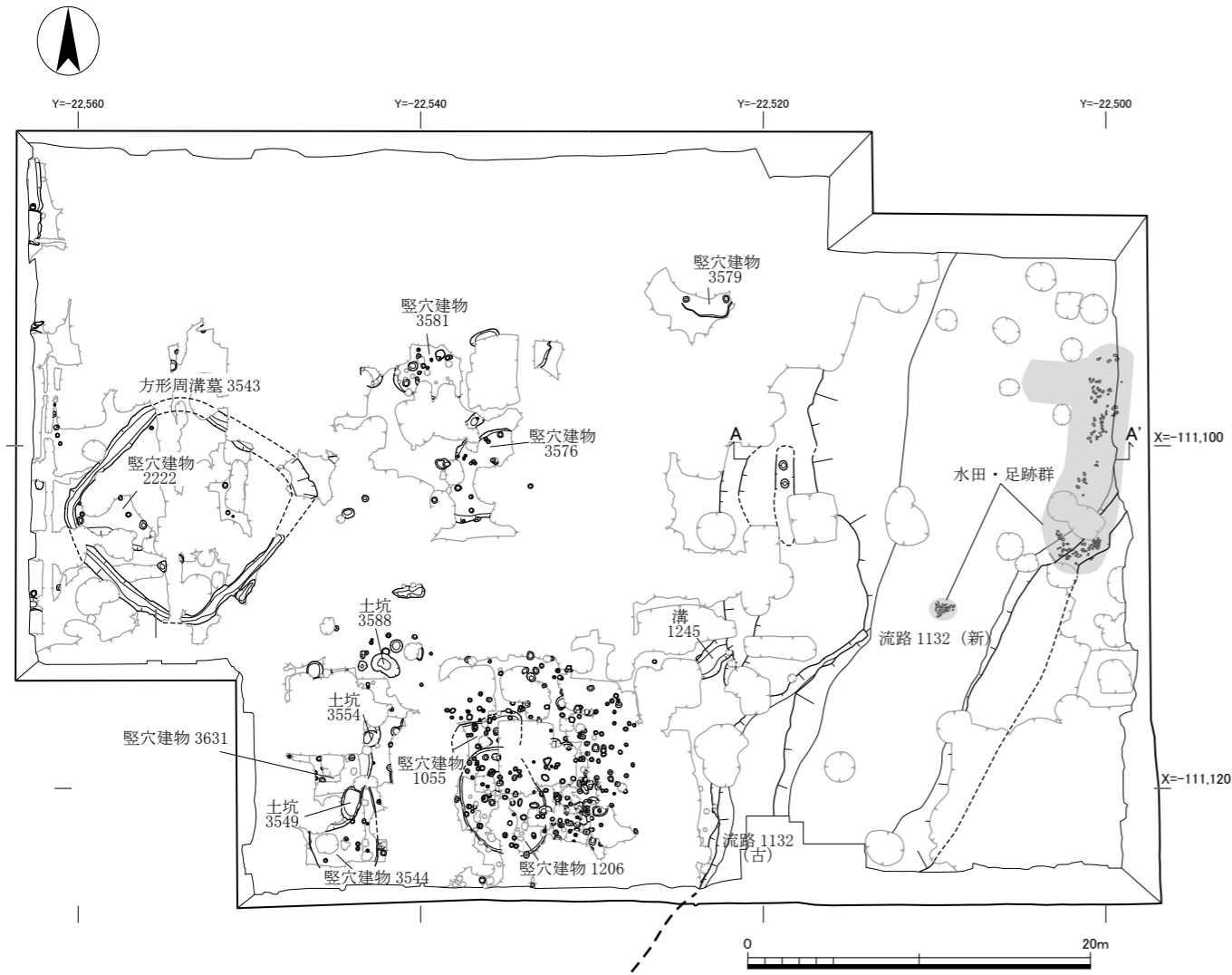


図3 元醒泉小学校地点 弥生時代遺構平面図(1:400)

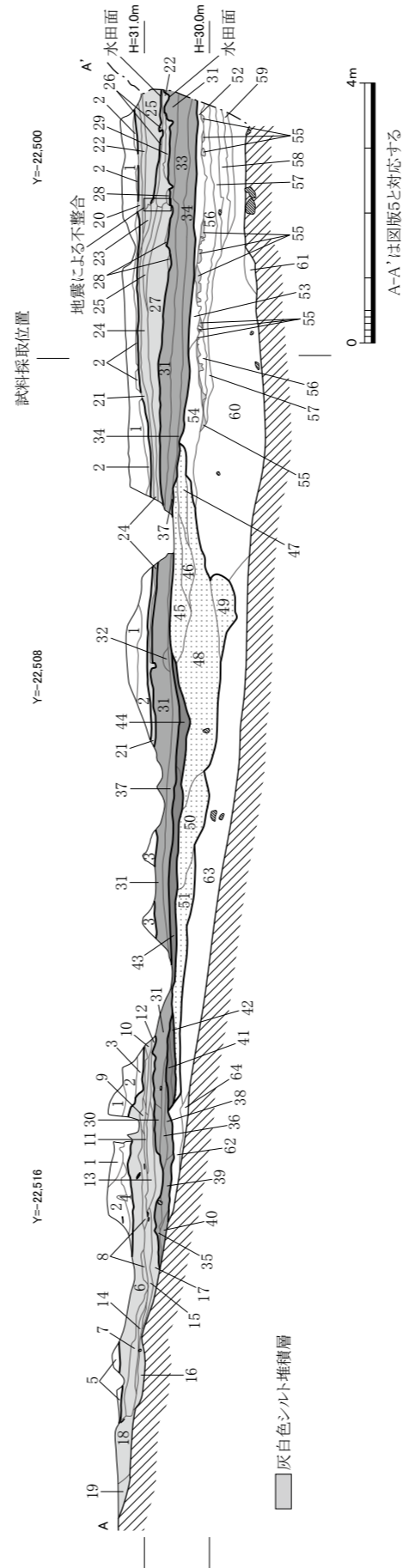
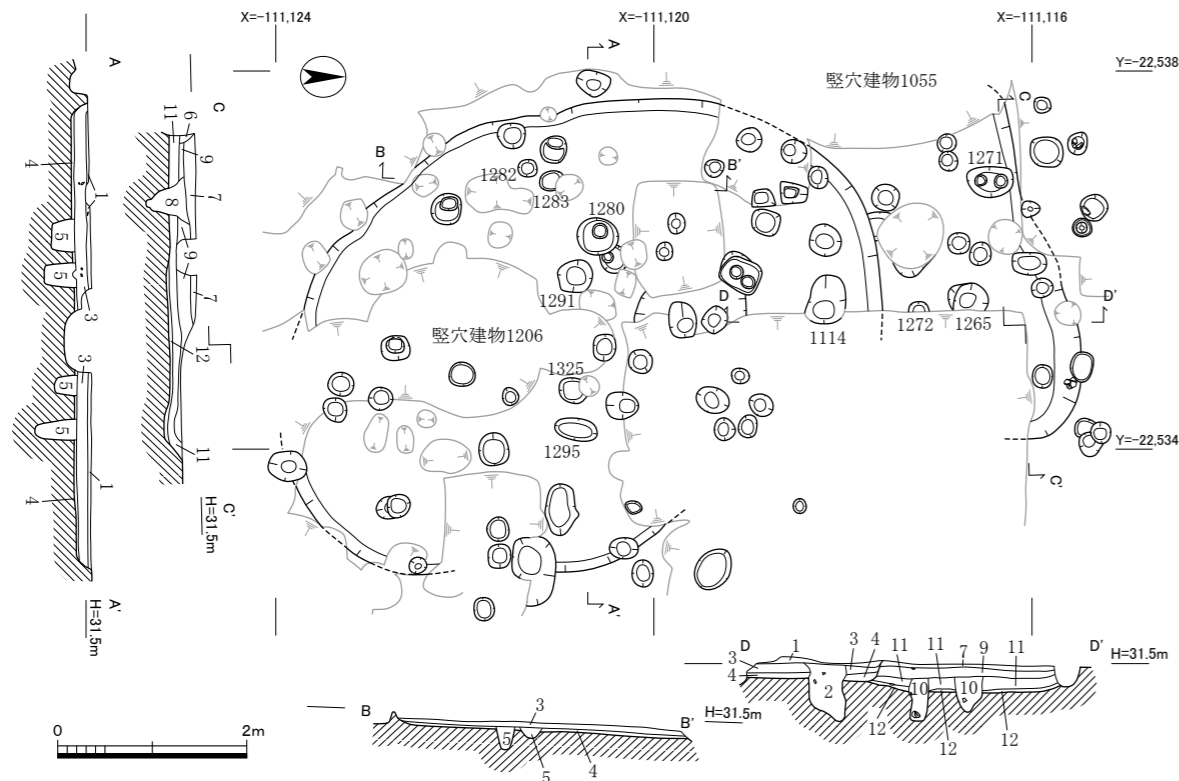


図4 2区流路1132断面図(1:100)

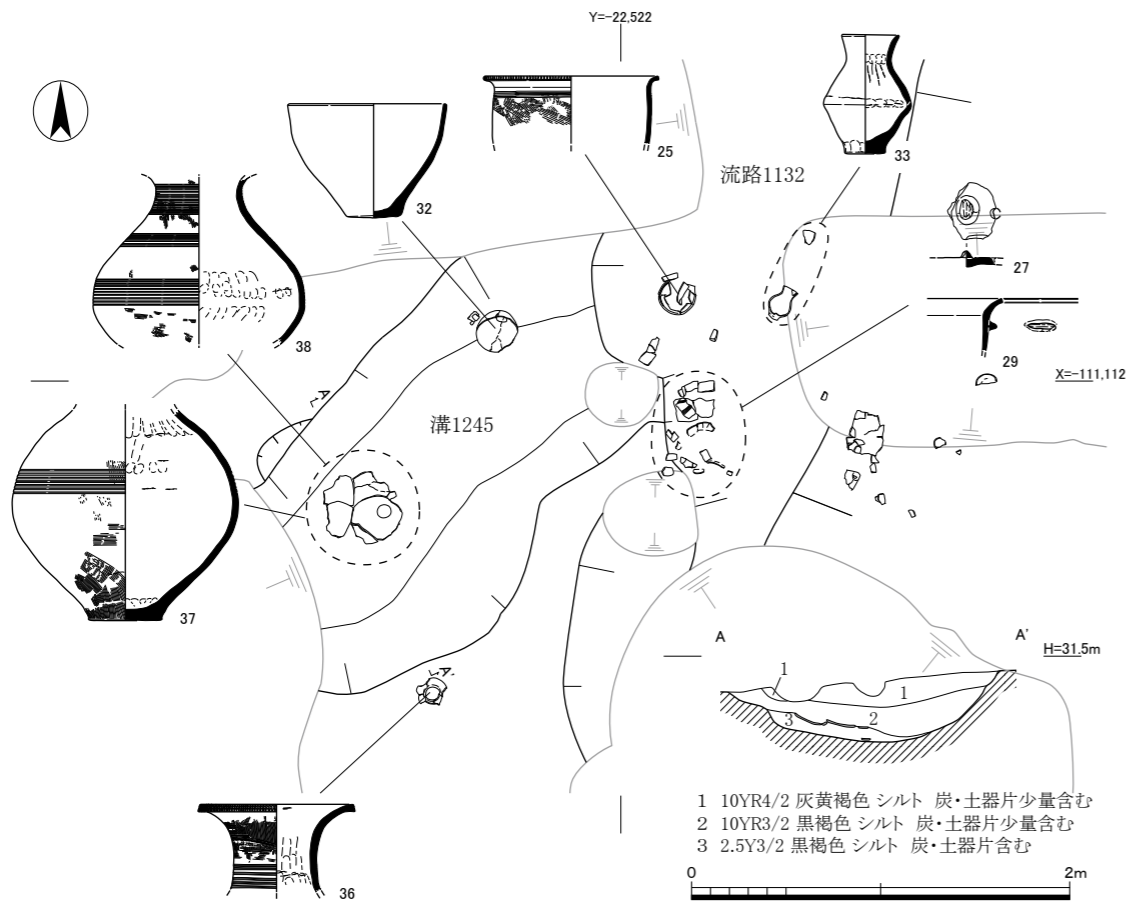
試料採取位置	II層	III層	IV層
33	10YR3/2黒褐色シルト φ0.5~1cmの礫少量・炭・土器片含む		
34	10YR4/2黒褐色極細砂 φ3~5cmの礫少量・炭・土器片含む		
35	2.5Y6/3こぶい黄色シルト φ1~2cmの礫少量・炭・土器片含む		
36	2.5Y4/2暗灰黄色極細砂〜シルト φ0.5~1cmの礫少量含む		
37	2.5Y5/3黄褐色極細砂〜シルト φ1~2cmの礫少量・炭多量含む		
38	2.5Y4/4オリーブ褐色シルト φ0.5~1cmの礫少量・炭多量含む		
39	2.5Y4/2暗灰黄色シルト φ0.5~1cmの礫少量・炭多量・土器片含む		
40	2.5Y5/3黄褐色細砂 φ0.5~1cmの礫少量含む		
41	2.5Y4/6オリーブ褐色粗砂 φ1~2cmの礫少量含む		
42	2.5Y5/3黄褐色細砂〜シルト φ1~2cmの礫少量・炭・土器片含む		
43	2.5Y5/3黄褐色細砂〜中砂 φ1~2cmの礫少量・炭・土器片含む		
44	2.5Y6/1黄灰色細砂〜シルト φ2~5cmの礫少量含む		
45	2.5Y5/4黄褐色細砂〜中砂 炭少量含む		
46	2.5Y5/1黄灰色細砂〜粗砂		
47	2.5Y6/2灰黄色粗砂 φ1~3cmの礫多量含む		
48	2.5Y4/2暗灰黄色細砂〜粗砂		
49	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂 鉄分沈着		
50	2.5Y5/1黄灰色粗砂 φ5~10cmの礫多量含む		
51	2.5Y5/3黄褐色中砂〜粗砂 土器片含む		
52	10YR6/2灰黄褐色極細砂〜シルト φ0.5~1cmの礫少量含む		
53	2.5Y5/2暗灰黄色細砂 炭少量含む 鉄分沈着		
54	10YR4/2灰黄褐色細砂〜粗砂		
55	2.5Y4/2暗灰黄色極細砂 10YR8/1灰白色シルト(灰白色シルト堆積層)		
56	2.5Y3/3暗オリーブ褐色極細砂 φ0.2~0.5cmの礫少量含む		
57	2.5Y4/2暗灰黄色細砂〜極細砂 φ1~5cmの礫少量含む		
58	2.5Y4/2暗灰黄色細砂〜極細砂 φ1~2cmの礫少量含む		
59	2.5Y3/2黒褐色細砂〜シルト φ0.5~1cmの礫少量含む		
60	2.5Y5/1黄灰色極細砂〜シルト 2.5Y5/4黄褐色細砂		
61	2.5Y5/4黄褐色粗砂		
62	10YR5/6黄褐色粗砂 鉄分沈着		
63	2.5Y6/3こぶい黄色粗砂		
64	2.5Y6/2灰黄色粗砂 鉄分沈着		
I層			
1	2.5Y5/4黄褐色シルト 2.5Y6/3こぶい黄色細砂混じる		
2	2.5Y5/4黄褐色シルト 炭少量含む		
3	2.5Y6/3こぶい黄色細砂〜極細砂 φ0.1cmの礫少量含む		
4	2.5Y6/4こぶい黄色細砂〜極細砂 φ0.1cmの礫少量含む		
5	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂 φ1~2cmの礫多量含む		
6	2.5Y5/2暗灰黄色中砂 φ0.5~2cmの礫多量・土器片含む		
7	2.5Y5/2暗灰黄色中砂 φ0.2~1cmの礫多量含む		
8	2.5Y5/3黄褐色細砂 φ0.2~0.5cmの礫少量・土器片含む		
9	2.5Y5/3黄褐色細砂 φ0.5~1cmの礫少量含む		
10	10YR6/4こぶい黄褐色細砂〜極細砂		
11	10YR6/4こぶい黄褐色細砂 φ0.1~0.2cmの礫少量含む		
12	10YR6/4こぶい黄褐色細砂 φ0.1~0.2cmの礫少量・土器片含む		
13	10YR6/2灰黄褐色細砂〜中砂 φ0.5~1cmの礫少量・土器片含む		
14	2.5Y6/3こぶい黄褐色細砂 炭少量含む		
15	10YR6/2灰黄褐色細砂 炭・土器片含む		
16	10YR4/4褐色細砂 炭少量含む		
17	10YR6/3こぶい黄褐色細砂 φ0.2~0.5cmの礫少量・炭・土器片含む		
18	10YR5/3こぶい黄褐色細砂 φ0.2~0.5cmの礫多量含む		
19	2.5Y3/2黒褐色細砂 炭・土器片少量含む		
20	2.5Y6/2灰黄褐色細砂 炭少量含む		
21	2.5Y6/3こぶい黄色細砂 炭少量含む		
22	2.5Y6/3こぶい黄色細砂 φ0.1~0.3cmの礫少量含む		
23	2.5Y6/3こぶい黄色細砂 炭少量含む		
24	2.5Y6/3こぶい黄色細砂 炭少量含む		
25	2.5Y6/2灰黄褐色細砂 鉄分沈着		
26	2.5Y6/2灰黄褐色細砂 鉄分沈着		
27	10YR4/2灰黄褐色極細砂〜粗砂 炭少量含む		
28	2.5Y4/2暗灰黄色極細砂		
29	10YR6/1灰黄褐色細砂 炭少量含む		
30	2.5Y4/4オリーブ褐色シルト φ0.1~0.2cmの礫少量・炭多量含む		
31	2.5Y4/2暗灰黄色シルト 炭多量・土器片含む		
32	2.5Y5/1黄灰色シルト φ0.5~10cmの礫少量・炭・土器片含む		

図4 2区流路1132断面図(1:100)



- 1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 土器片・石器片少量含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
- 3 10YR5/6 黄褐色粘土ブロック含む [柱穴1114]
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
- 5 10YR3/3 暗褐色 シルト[床土]
- 6 10YR3/1 黒褐色 シルト～細砂 炭・土器片微量含む [柱穴1280・1282・1283・1291・1295・1325]
- 7 10YR5/2 灰黄褐色 シルト 石器片含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 炭中量含む [柱穴1271]
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 炭・土器片含む[第1床土]
- 10 10YR4/2 にぶい黄褐色 シルト
- 11 10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・炭・土器片含む[柱穴1265・1272]
- 12 10YR3/3 暗褐色 シルト
- 13 10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・焼土・炭含む[第2床土]
- 14 10YR3/2 黒褐色 シルト 炭・土器片含む

図5 竪穴建物1055・1206(S=1:80)



- 1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 炭・土器片少量含む
- 2 10YR3/2 黒褐色 シルト 炭・土器片少量含む
- 3 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 炭・土器片含む

図6 溝1245(S=1:40)

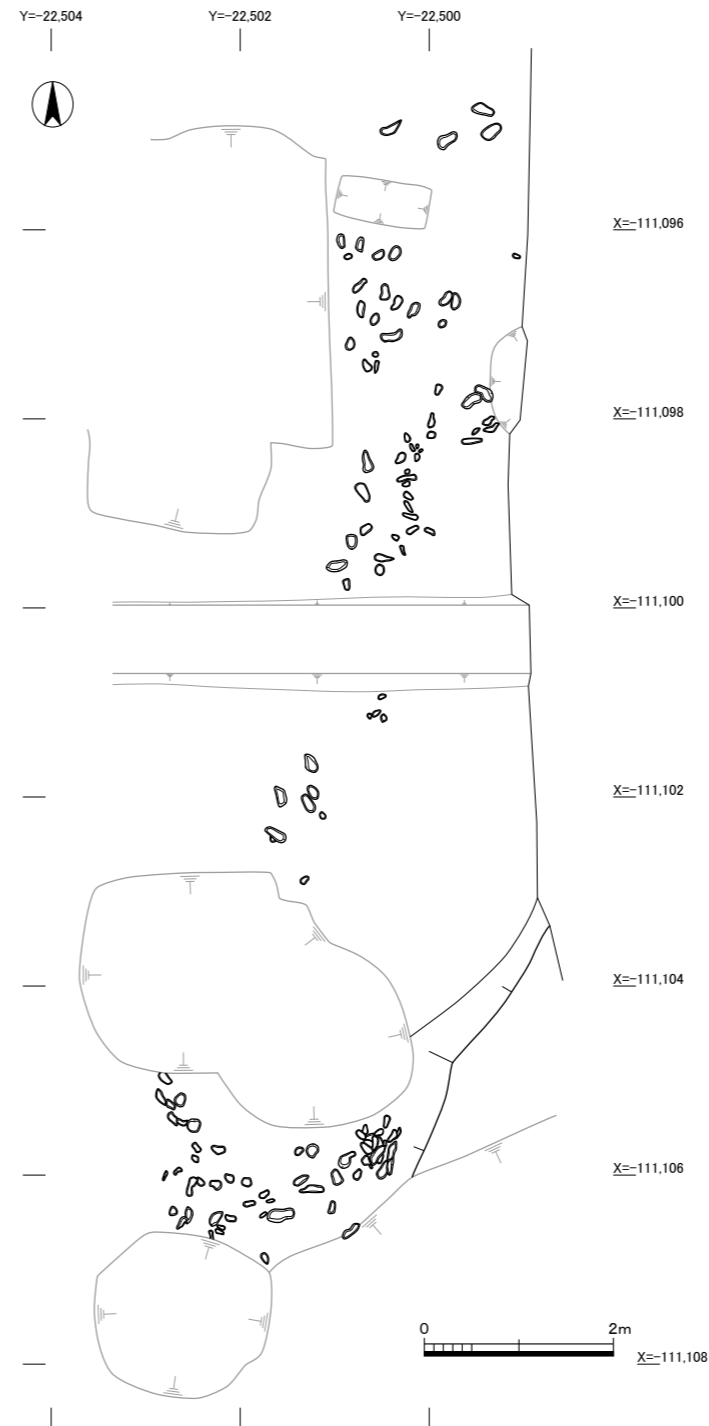


図7 足跡群(S=1:80)

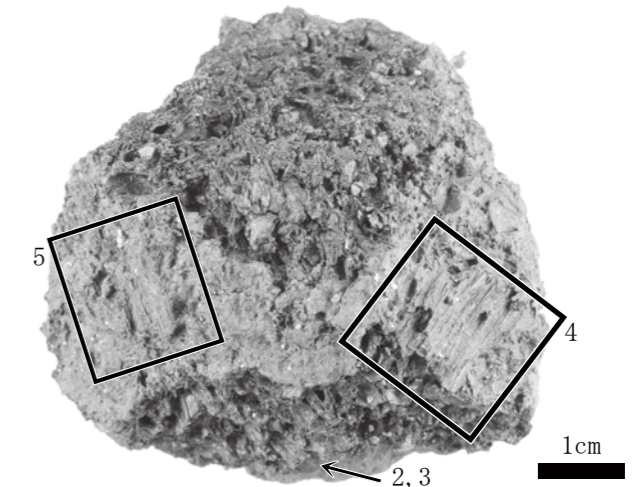


図8 イネ穎・胚乳(塊状)

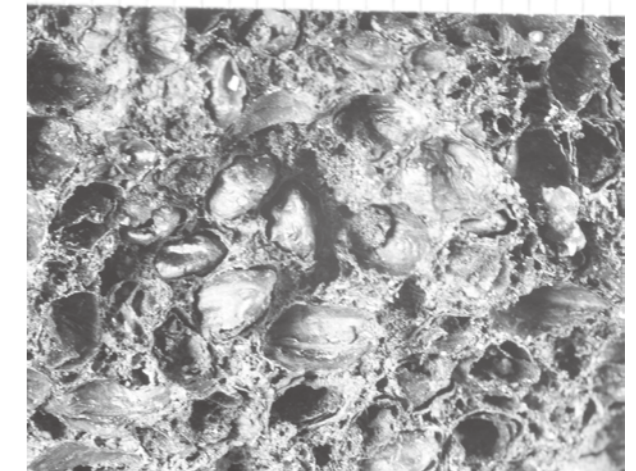


図9 イネ穎・胚乳(拡大)

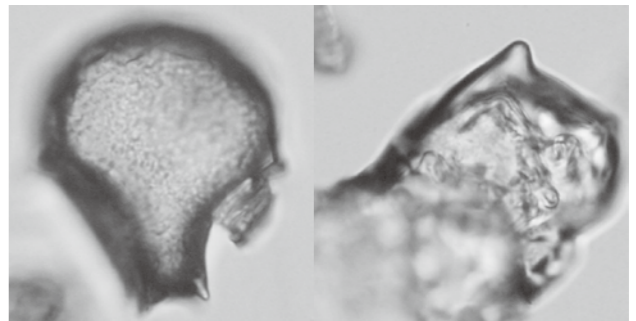


図10 イネ属珪酸体

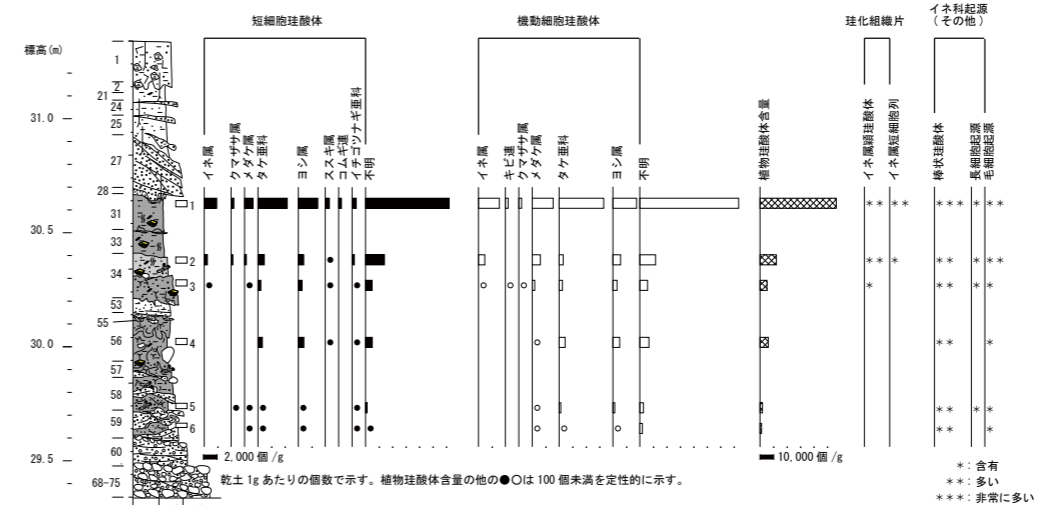


図11 2区流路1132 secにおける植物珪酸体含量の層位分布

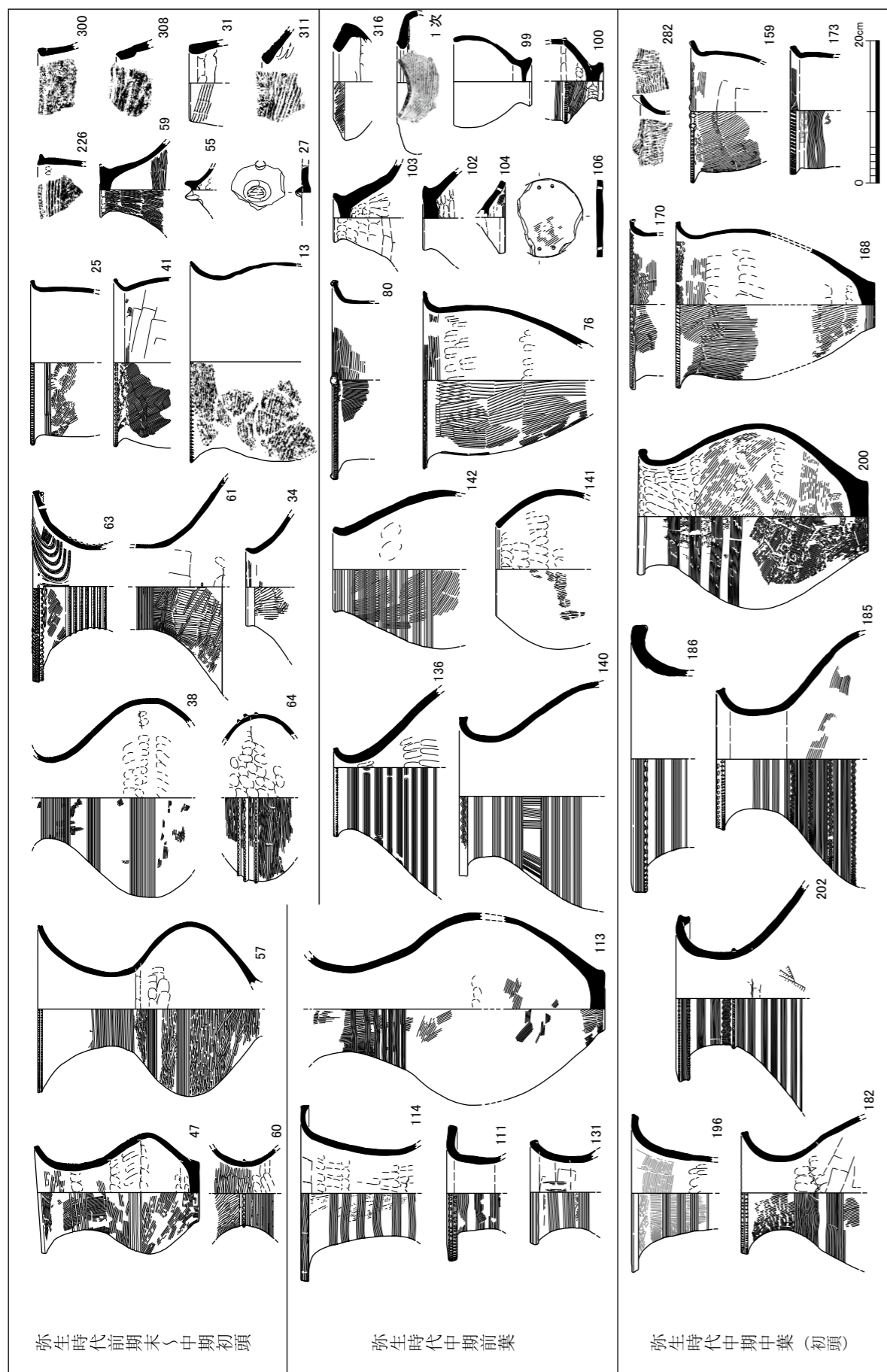


図12 弥生時代前期末から中期前半の土器(S=1:8)

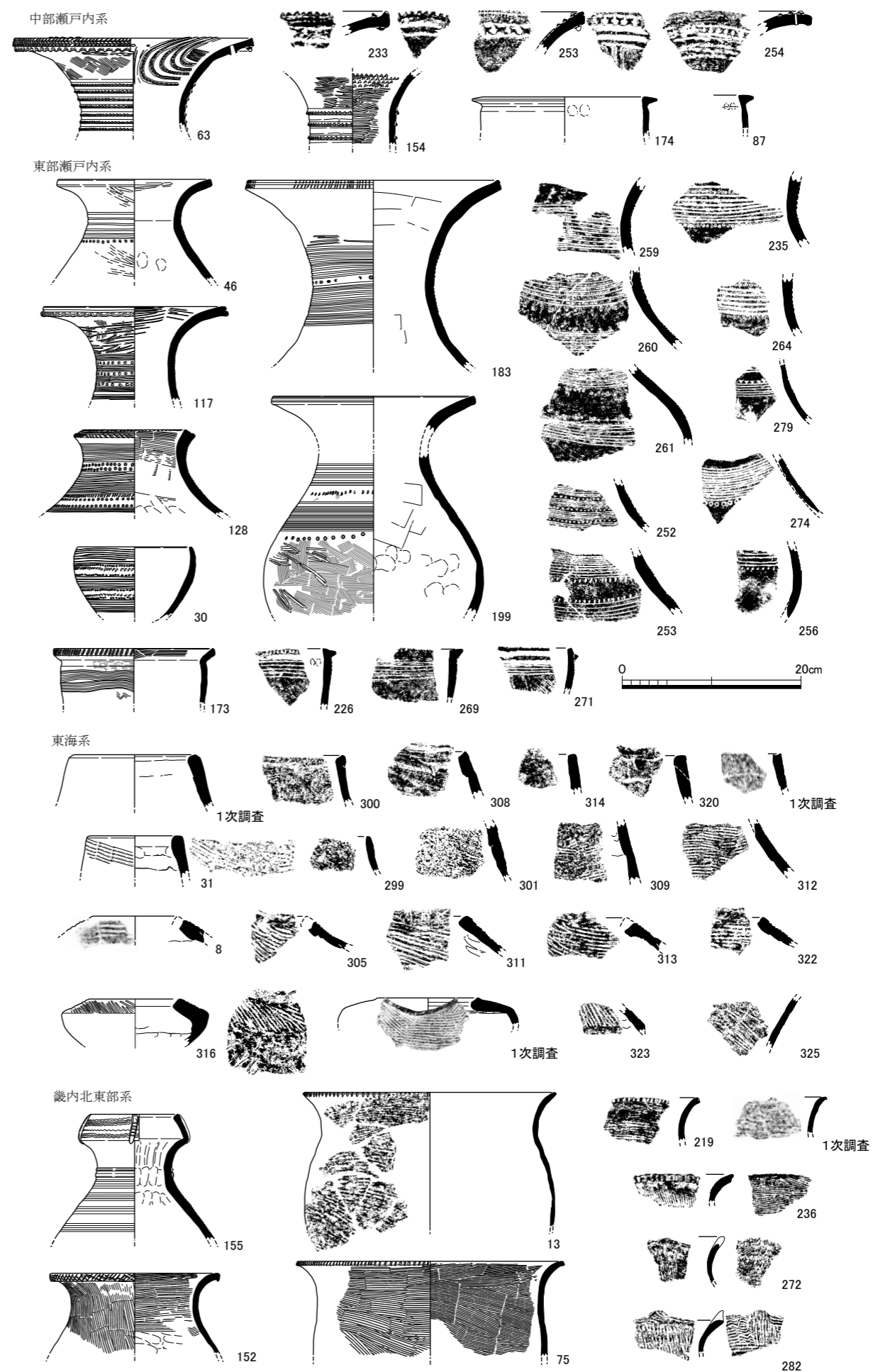


図13 地域間交流を示す土器(S=1:6)

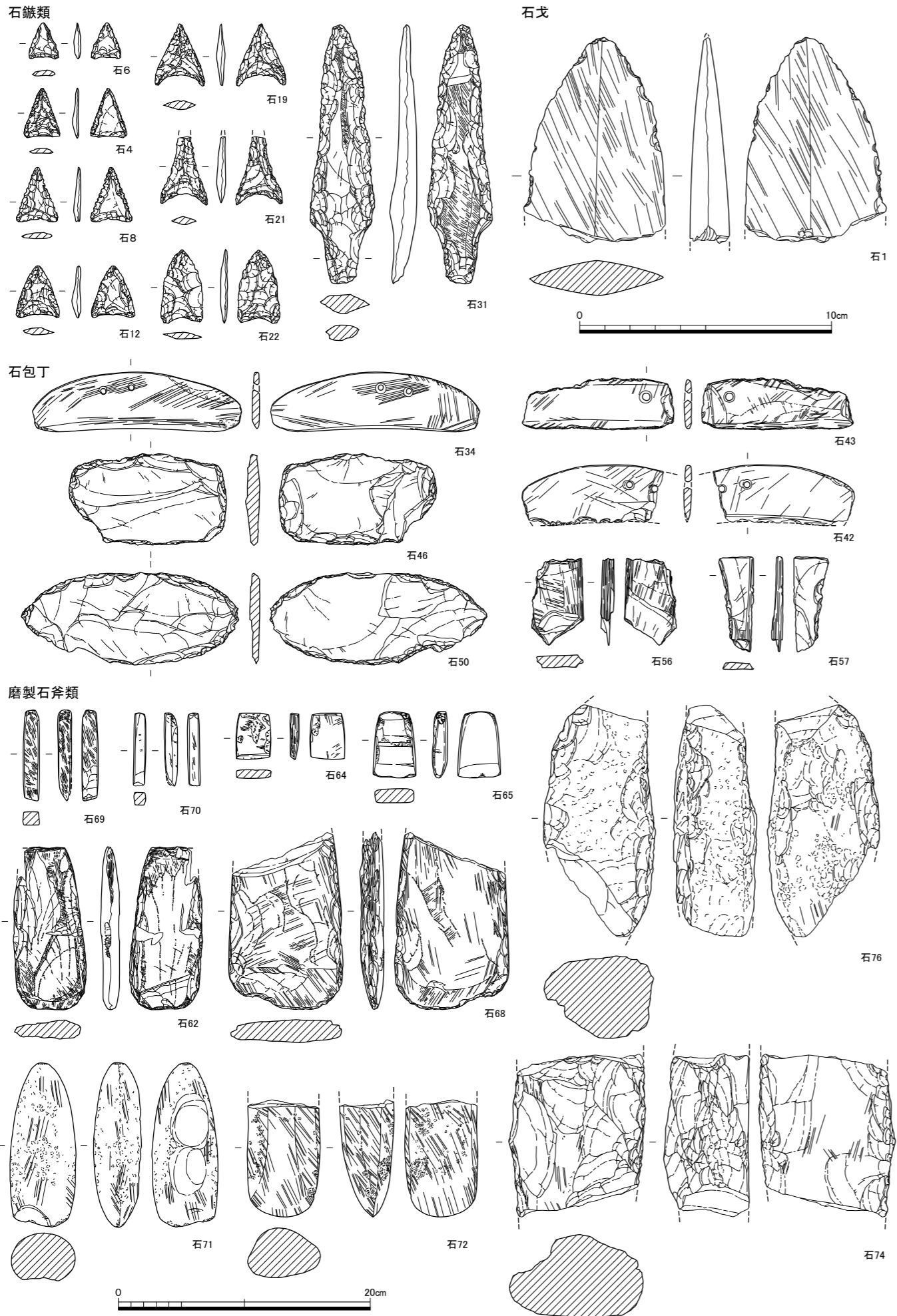


図14 石器類実測図(石鏃類・石戈 1:2、石包丁・磨製石斧類 1:4)

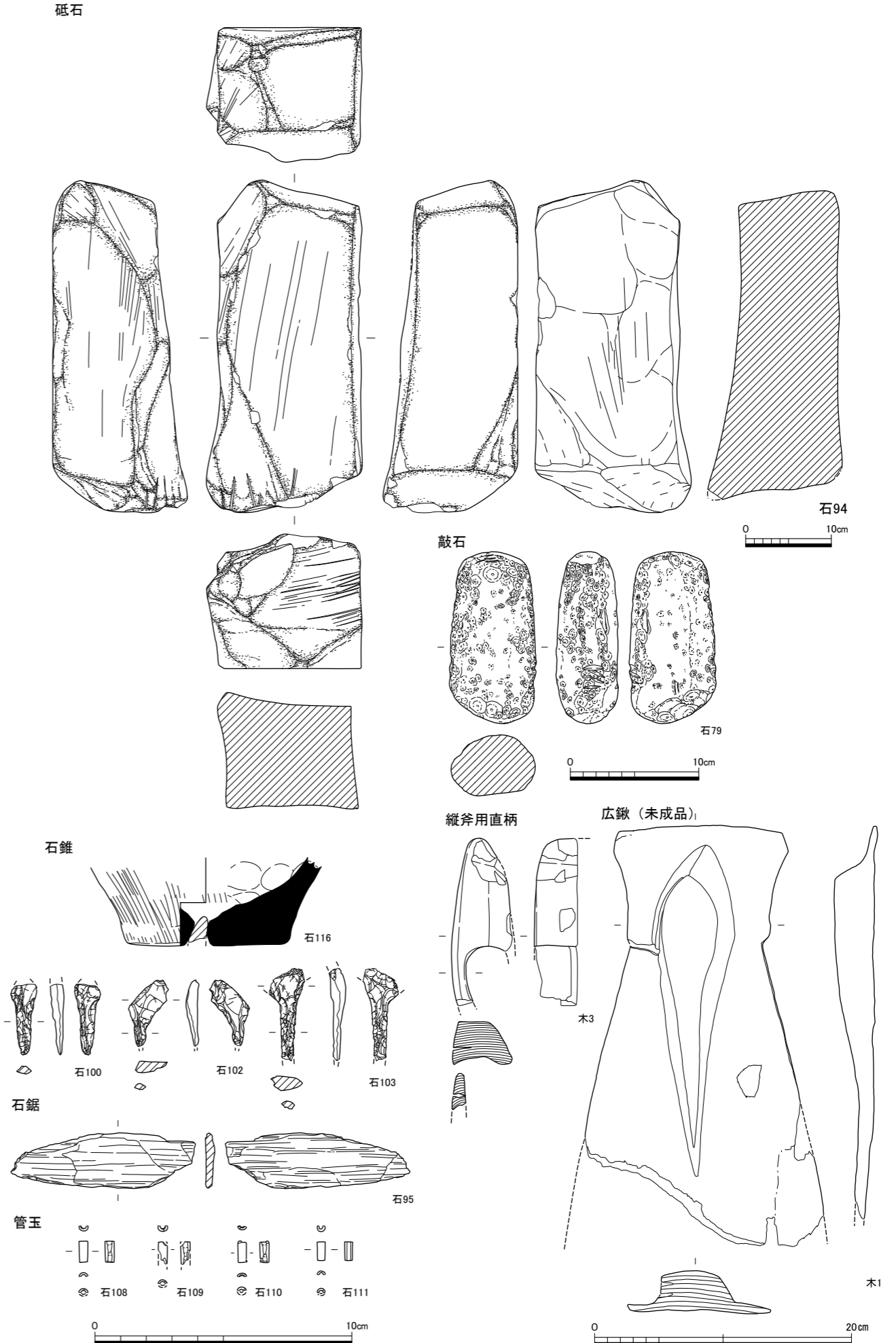


図15 石器類・木器実測図(石錐・石鏃・管玉 1:2、敲石・木製品 1:4、砥石 1:6)

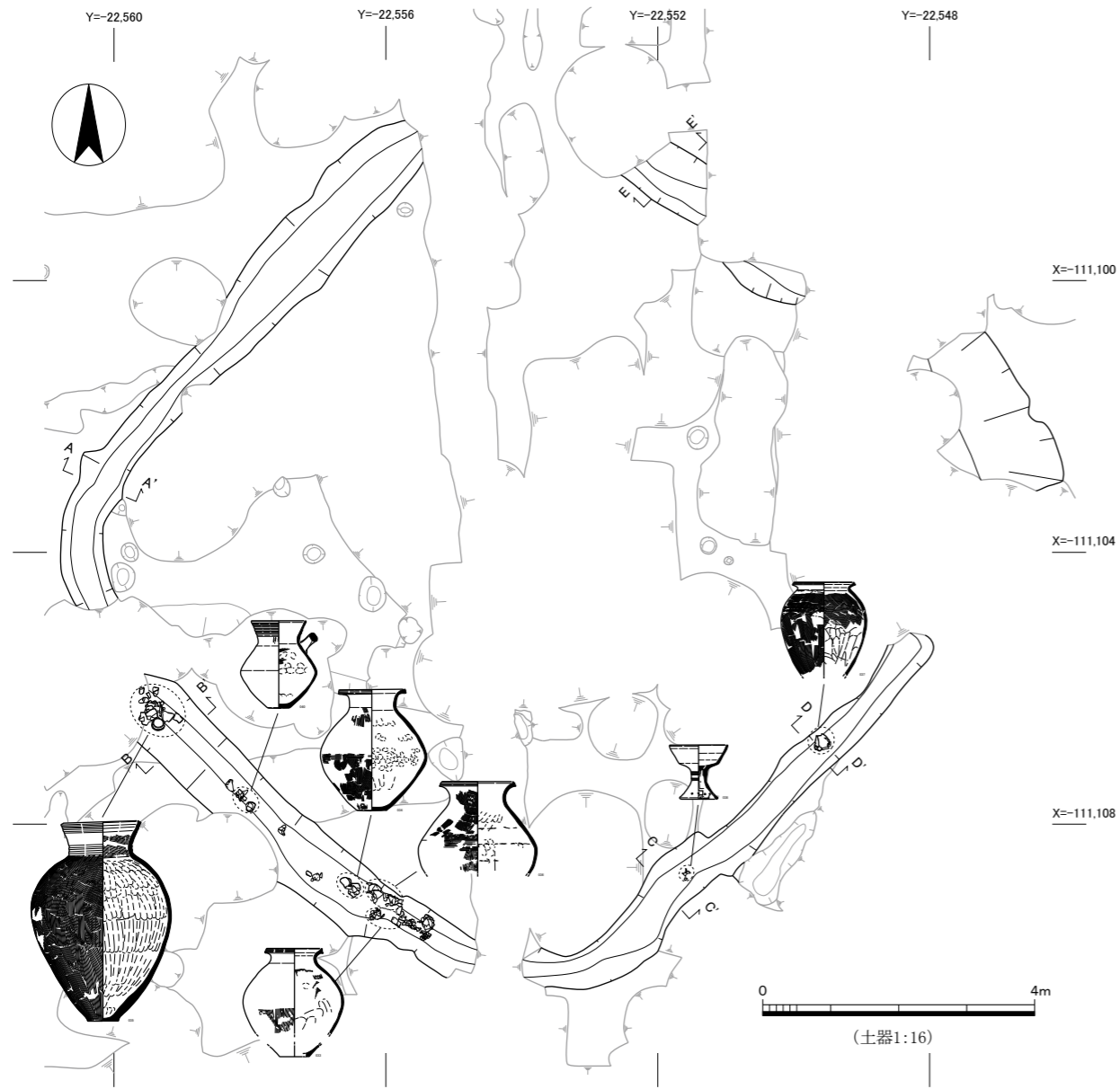


図15 方形周溝墓3543平面図・遺物出土状況図(1:100)

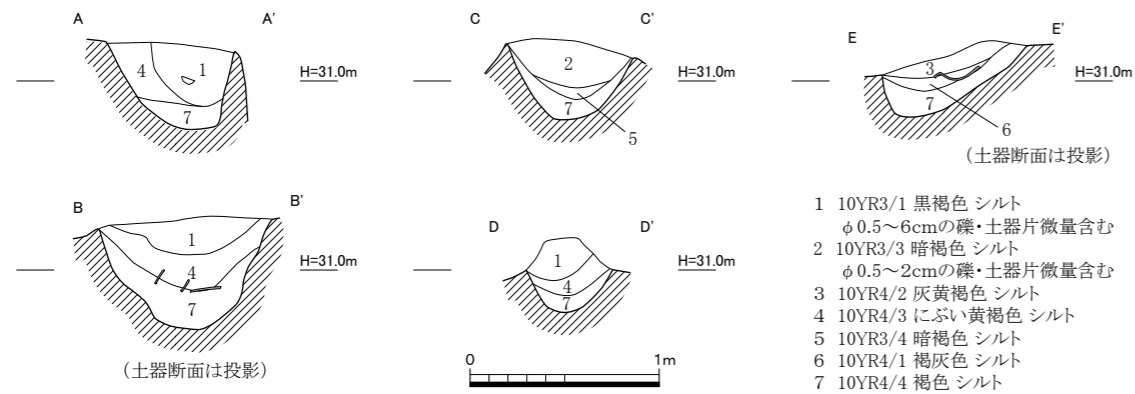


図17 方形周溝墓3543断面図(1:40)

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト  
φ0.5~6cmの礫・土器片微量含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト  
φ0.5~2cmの礫・土器片微量含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト
- 6 10YR4/1 褐灰色シルト
- 7 10YR4/4 褐色シルト

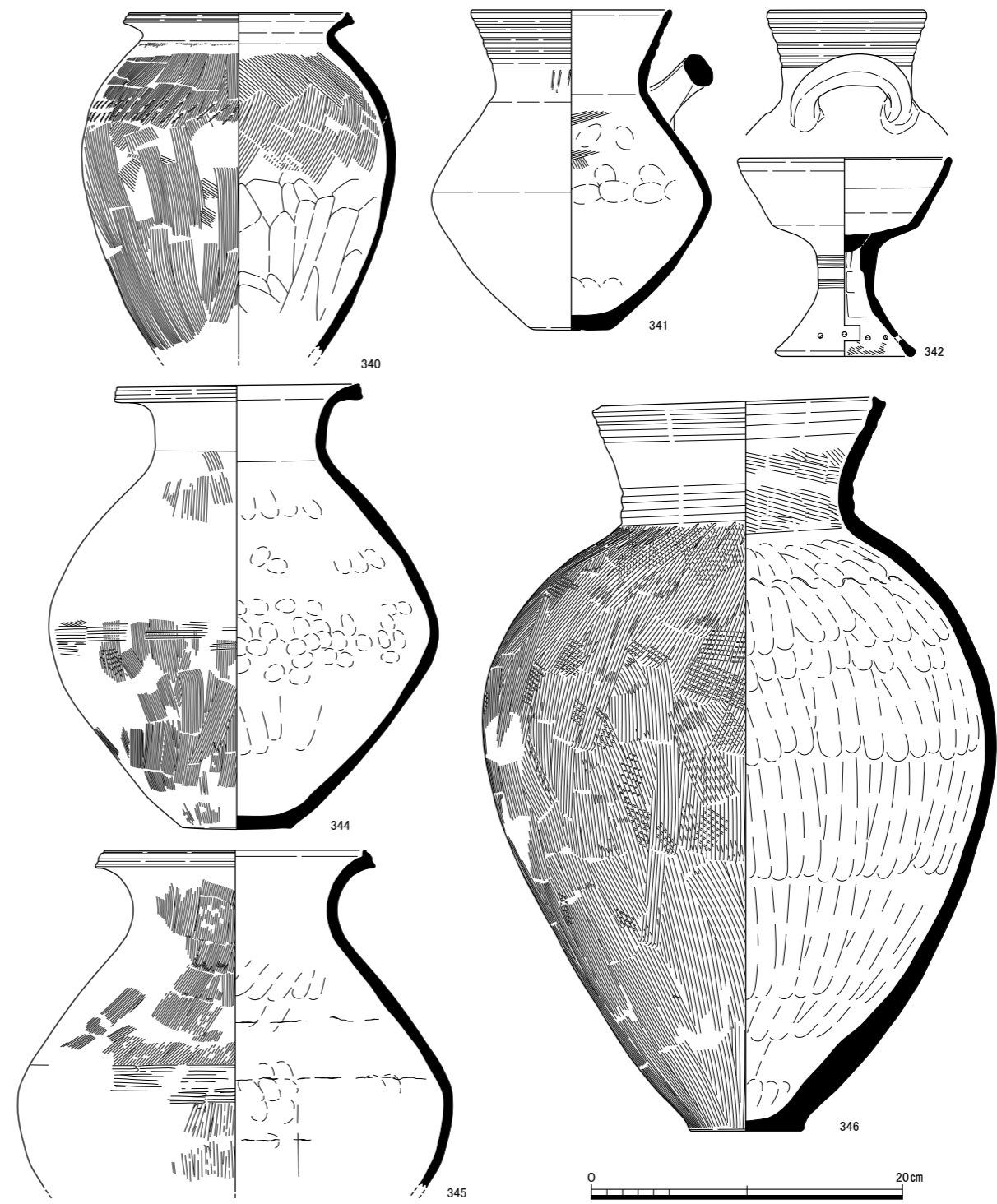


図18 方形周溝墓3543出土土器(1:4)

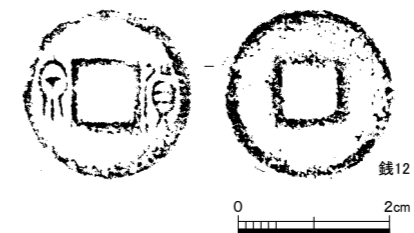


図19 貨泉拓影(1:1)